

目指す学校像	(生徒が) 通いたい、(保護者が) 通わせたい、(職員が) 働きたい、(地域が) 応援したい学校 ○笑顔があふれる学校 ○あいさつの飛び交う学校 ○歌声の響く学校
重点目標	1 真の学力の基礎を身に付けた生徒の育成 2 生徒が自分に自信をもち、自己肯定感を高める指導の推進 3 コミュニティ・スクールによる特色ある学校づくり 4 一人ひとりの多様な幸せ (Well-being)を大切にする学校づくり

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日令和5年2月17日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】ICTの活用を含めた授業改善により主体的かつ個に応じた学びを実現させるため引き続き校内研修で積極的な公開授業を実施し授業改善に努めている。令和4年度学校評価の生徒アンケート「授業に一生懸命取り組んでいる」の項目で肯定的な回答が92%であった。一方で、学校評価保護者アンケート「分かりやすい授業の工夫」の項目の肯定的な回答が、52%と課題が見られている。</p> <p>【課題】主体的に一生懸命学習に取り組んでいると感じている生徒が多い一方で生徒の真の学力に結びついていない現状が見られる。</p>	真の学力の獲得に向けた教職員の指導力向上に関する取組	エバンジェリスト、ICT支援員等を活用して授業改善研修会等を毎月実施する。また、市教育委員会の学力向上カウンセリングをとおして効果的な教科指導に向けた授業改善を行う。それらをもとに全職員が公開授業を実施し実践力を身に付ける。	令和5年度学校評価の保護者アンケート「分かりやすい授業の工夫」の項目における肯定的な回答60%以上を達成できたか。	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価保護者アンケート「分かりやすい授業の工夫」の項目における肯定的な回答が約65%と昨年度より15%向上し目標を達成した。 毎月2回、ICT支援員が実際の授業に入り授業改善を継続して実施した。 市教育委員会指導主事に要請し、ICT活用研修、学力向上カウンセリング研修を開催し効果的な指導に向けた授業改善を行った。 全職員が公開授業を実施し職員間で助言し合い実践力を向上させた。 	A	各取組が確実に授業改善につながっていたが、一人一台端末の活用に課題が見られた。引き続き生徒と向き合い、触れ合いを大切にしながらICTのより効果的な活用と活用場面について研究し、授業改善に努める。	・引き続き故障の際の対応も含めて、ゆとりをもって一人一台端末を確保できるようにする必要がある。また、ネット環境の整備を進め生徒の学びに支障がでないようにする必要がある。 ・小学校段階から子どもたちのICT活用能力が上がっているのは感じられる。一方で、ICTの効果的な活用場面や方法を研究し、対面や触れ合い、実体験を伴う活動も大切にしていって必要を強く感じる。
2	<p>【現状】毎週実施する生徒指導・いじめ対策委員会、教育相談・特別支援教育部会を基盤に組織による迅速な対応を心掛けている。また、本校独自の校内教育支援センター「ステップアップルーム」の取組により個に応じたサポートを行っているが、不登校生徒数は減少傾向にない。</p> <p>【課題】不登校の原因をより明確にするとともに家庭や関係機関と一層連携を密にした対応が必要である。</p>	全ての生徒が安心・安全に学校に通える教育環境の整備	生徒指導・いじめ対策委員会、教育相談・特別支援教育部会を毎週開催し、迅速かつ丁寧に組織で対応する。様々な課題を抱えた生徒が自信を付けるための校内教育支援センター「ステップアップルーム」を引き続き設置する。また保護者、関係機関との連携を密にしながら指導・支援の体制を整備し個に応じた適切な支援を行う。	いじめが原因による不登校生徒ゼロを達成できたか。また本校独自の校内教育支援センターステップアップルームを活用し昨年度より不登校生徒数を20%減少させることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> いじめが原因による不登校生徒ゼロを達成できた。 不登校生徒数は昨年度から13%減少と目標をやや下回ったが、ステップアップルーム利用の生徒の9割が行事または教室での授業に参加することができた。 個に応じた支援の実現に向けてステップアップルーム利用時における家庭との面談体制を整備した。 	B	組織的な対応、ステップアップルームの活用により一定の成果を上げた。一方で、不登校生徒数を「増やさない」という取組、不登校生徒の家庭への情報発信に課題が見られたため、支援体制のさらなる整備と積極的な情報発信に努める。	・ステップアップルームの取組の効果が見られている。引き続き家庭と連携して取組を継続してほしい。 ・不登校生徒の家庭への情報発信においては、情報発信アプリを活用してスクールカウンセラーだより等を発信し、より専門機関とも連携しやすい環境づくり等の工夫ができると考える。 ・生徒の不登校問題の解決や自己肯定感を高める指導については家庭との連携に加えて、小・中におけるより一層の連携強化が大切であると考え。
3	<p>【現状】昨年度の学校運営協議会での熟議等を生かして体育祭、合唱コンクールを動画配信し一定期間視聴できるように工夫をした。また実施形態を工夫しながら学校公開を開催した。さらにPTAと連携し情報発信アプリを活用して効果的に学校からの情報を発信している。その結果令和4年度学校評価保護者アンケート「積極的な情報発信」の肯定的な回答が4%上昇し83%となった。</p> <p>【課題】学校ホームページを充実させることで、より積極的に学校の取組を発信し、家庭、地域の理解と協力を求めていく。</p>	学校運営協議会を基盤とし家庭、地域と連携を密にした特色ある学校づくりに関する取組	学校運営協議会を年3回実施し、学校の状況等を積極的に発信するとともに学校自己評価システムを活用してPDCAサイクルのもと家庭、地域と連携した取組を実施する。	学校運営協議会の熟議で決定したことを実践できたか。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問、ステップアップルームの活用、PTAと連携した情報発信アプリによる積極的な情報発信、外部機関の効果的な活用等、学校運営協議会で熟議を重ねた不登校生徒への対応を実践した。 	A	学校、家庭、地域の連携、つながりが途切れないように引き続き学校運営協議会における熟議等を効果的に活用していく。	・学校長の学校経営方針に基づいて、引き続きできる支援を行ってきたい。 ・地域から依頼している中学生ボランティアが主体的な態度で活躍していて好印象である。 ・PTAと連携した情報発信アプリは保護者のニーズや効果が高くできる限り継続してほしい。 ・市民の意識調査結果から各家庭の地域への関心が低下している状況が見られる。学校、家庭、地域が連携し無関心層をいかに巻き込むかが重要である。
4	<p>【現状】教職員事故撲滅に向けて管理職等から継続した声掛けや研修等の実施、必要に応じた指導を行っているが、家庭から不安の声が聴かれる場面が見られる。</p> <p>【課題】教職員一人ひとりが人権意識を高め、より主体的に温かみのある指導を実践する必要がある。</p>	一人ひとりの多様な幸せ (Well-being)を大切にする学校づくりの推進	教職員事故防止に向けて年3回以上研修を実施するとともに、毎週、適切な指導にむけた啓発を行う。また、外部講師を招き人権意識を高める教職員向けの研修会を実施する。さらに、教職員自己評価シートと関連付け、よりよい指導に関して積極的に評価することで主体的によりよい指導を実践することにつなげる。	保護者への学校評価アンケート「組織的な体制による生徒の指導」の項目における肯定的な回答70%以上を達成できたか。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への学校評価アンケート「組織的な体制による生徒の指導」の項目における肯定的な回答80%と目標を達成した。 教職員事故防止に向けて年3回研修を実施するとともに、毎週、適切な指導にむけた啓発を行った。また市教育委員会による服務に関する講話や外部講師による人権意識を高める教職員向けの研修会を実施した。 	B	教職員事故防止に向けて各研修、取組を進め一定の成果を上げたが、一部、服務について教育公務員としての意識に甘さが見られた。引き続き職員の教育公務員としての意識、人権意識を高めるため教職員研修等を充実させる。	・勤務中ではなくとも生徒や保護者の前に立てば教職員としての自覚をもって行動する必要がある。校長のリーダーシップのもと細心の注意を払って取り組んでほしい。 ・教職員からの挨拶が依然と比べて減ってきている印象がある。挨拶の飛び交う学校に向けて教職員が率先して挨拶を励行してほしい。